医療関係者の皆様

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)に関する NCGM センター病院リハビリテーション科の対応

COVID-19 重症の症例は、感染症科だけではなく、総合病院の各科の専門知識を動員して対処する疾患であり、NCGM センター病院リハビリテーション科も、回復促進目的で診療に参加しています。

基本的な(今まで同様の)院内感染防護策に加え、別に公表している COVID-19 対策(文末に URL 掲示)をとっておりますが、他院のリハビリテーション関係者からのご質問が多いので、より具体的に当科での対応をお知らせいたします。

1. COVID-19 確定及び濃厚疑い患者についての対応

1)装備

袖までのエプロン、二重手袋、N95 マスク、目の防護、キャップを装着。

2)物品

歩行器・車いす・筋電気刺激装置などは、アルコール清拭後所定の時間 を経てから返却いただき、さらに念のためリハビリテーション科でもア ルコール清拭しています。

プリントなどは(サインを頂いた書類を除ぎ)部屋に置いてきます。

3)担当者とその業務内容

現在は担当医1名を決め、病棟看護師への指導・本人指導・実際の訓練 行為(呼吸・四肢体幹・立ち上がり・嚥下訓練・失語症訓練など)を行っています。意識清明症例においては、リハビリテーション実施計画も 説明し、所定の時間行った場合は、専従医師として、訓練としての算定 も行っています。 必ずしも「その日の診療の最後」ということにはしていません。防御を 徹底し、その後も他の患者さんに接しています。

患者さんの家族は、面会が出来ません。ご本人がスマートフォンでご家族とテレビ電話が成立している場合には、その電話でご挨拶したり、立位訓練の様子を見ていただいたりもしています。ご要望に応じて、主治医とも相談の上で、家族にリハビリ経過のご説明も面談で(ご家族の来院制限の範囲で、別室で)おこなっています。

4) 嚥下訓練・呼吸訓練の留意点

COVID-19 および濃厚疑い症例では、PPE だけでなく、咳に対する立ち 位置について可能な限り配慮しています。

①咳をしてもらう際には、事前に説明し、本人には咳エチケットを指導 してあります。

ペーパータオルを 1 枚渡して、それに向かって咳をしてもらいます。 →すぐ本人が捨てる。

また、医療者が正面に立たないように、気をつけています。

②嚥下の直接訓練は、VF・VE はせずに、観察と頸部聴診だけで進めています。

説明は正面から、食べてもらう+咳払いの観察は、本人の横後ろに位置 するようにしています。

2. COVID-19 から回復した症例

COVID-19 の陰性が確認された症例については、医学的必要性に応じて、通常通り訓練処方をして療法士が対応します。

3. COVID-19 の検査をしていない症例での咳に対する配慮

当院では、他院からの転入院や発熱患者などが COVID-19 でないことを確認するプロセスを設けています。 しかしながら、感染多発に伴い、全く無症

状の症例でも、感染経路不明の感染者である可能性が懸念される状態となりました。その事態を踏まえ、病院としては COVID 疑いではない症例でも、咳がある・肺炎があるような症例では、入院してしばらくの間、従来ならリハビリテーション室で訓練する症例でも、病棟で行うこととしています。

また、<u>やむを得ず</u>咳が予想されるような訓練(肺炎症例への対応、嚥下訓練など)が必要な場合には、担当者は手袋に加え、眼の防護と N95 マスクを着用することになりました。ディスポのアイシールドは払底しつつあり、ゴーグル型アイシールドは、アルコールで拭いて再利用しています。 N95 マスクは、現時点では、病院の規定の中での再利用をしています。

そのほかの体液への接触対策・飛沫対策は通常どおり実施しています。

4. 訓練開始後の PCR 検査症例

昨今、入院後、それまで COVID-19 を疑っていなかった症例において、何らかの症状の出現、又は、侵襲的な処置のために PCR を調べることがあります。そのような状況になった時、今まで訓練にあたっていた職員を休ませたりはしていません。 但し、院内にいる間はサージカルマスクを付け、常よりも更に健康状況に配慮してもらい、現在職員として求められている行動を継続してもらいます。そして、実際には、PCR 陰性確認まで(1日程度)訓練を休んでいます。

※2020年4月10日現在

下記も併せてご確認ください、

新型コロナウイルス感染症に関する感染管理

https://www.niid.go.jp/niid/images/epi/corona/2019nCoV-01-200407.pdf